

★ かぞくっていいな ～じぶんのできること～

教材：孝女おまさ

ねらい：生活科「しごとめいじんになれるかな」や家庭での実践と関連付けながら、父母に尽くすおまさの気持ちについて話し合うことを通して、家族のために自分ができることを進んで行おうとする心情を高める。

〈学習指導要領：道徳4（3）家族愛に対応〉

教材について

防長三孝女の一人「孝女おまさ」は、下松内の深浦の生まれである。学校近くにその頌徳碑があり、授業当時は徳山藩の絵師が描いたおまさの掛け軸が校長室に保管されているなど、学校とのかかわりは深い。

下松出身であることや学校近くに頌徳碑があること、自分たちと同じ年代から働き始めたことなどから、子どもたちはおまさを知らなくても、実はとても身近な人物だと感じることができると思われる。

授業を通じて、自分の中にもある「おまさ」と同じ思いに気付かせることで、郷土に愛着をもつとともに、家族のために自分ができることを実践したいという気持ちを高めることができると考えた。



「孝女おまさ」の掛け軸

展開例

学習の流れ

- ①自分がお手伝いをする時の気持ちを振り返る。
生活科の感想から取り上げて紹介
- ②おまさについて知り、おまさの気持ちについて話し合う。
おまさの行為と気持ち
- ③おまさに対する両親の思いについて話し合う。
父母の思い、「家族」とは
- ④自分の手伝いの体験について発表する。
手伝い体験の想起（おまさと自分の共通点）
- ⑤保護者からの手紙を読む。
保護者への感謝、家族に貢献している実感、実践への意欲

授業づくりのポイント

- ◇おまさの生きた時代や貧しい生活の様子をイメージしやすくするために、絵本等を活用する。
- ◇生活科「しごとめいじんになれるかな」の活動とリンクさせ、家庭にも協力を呼びかけて、今の自分の仕事や気持ちと比較しやすくする。
- ◇手伝いへの取組を価値付ける手紙を事前に保護者に依頼しておき、実践への意欲付けを図る。
- ◇実際に掛け軸を見たり、頌徳碑の見学に行ったりする。

教材研究

「孝女おまさ」（1762～1860）

防長三孝女の一人で、1762（宝暦12）年、深浦に生まれる。家は大変貧しく、まさは7歳の頃から野山や海岸で働いて家計を助けた。

母が眼病にかかった時には、治癒を願って船で妙見宮へ願掛けのお参りをするなどし、その親孝行ぶりが世間で評判となって、藩主から褒美を受ける。

1860（安政7）年に99歳で生涯を閉じたが、時の藩主が自然石で建てた墓が現在も深浦に残っている。また、1897（明治30）年に人々がおまさの遺徳をたたえて建てた頌徳碑が末武公民館そばにある。



- 参考文献
- 「下松市の民話・伝説と民謡」（下松市教育委員会）
 - 「防長の鏡三孝女」（中西俊二著）
 - 「孝女おまさ」（金井道子著 下松手づくり絵本の会）
 - 「版画笠戸島の民話と伝説」（下松市教育委員会）

他の取組例

- 他学年の道徳で「家族愛」をテーマに
- 家庭科の家族に関する内容と道徳を関連付けて

★ 地域のよさを見付けよう

教材：大波野神舞

ねらい：地域の人々から大波野神舞の由来・歴史や踊りを教えてもらうことを通して、郷土愛を育むとともに地域の人々との交流を深める。

〈学習指導要領：各学校の定められた目標による〉

教材について

田布施町大波野地区に江戸中期から伝わる大波野神舞は、村内円満・五穀豊じょう・悪魔ばらいなどを祈念し、庶民文化を担いつつ、心のふれあう連帯意識に支えられて、長い間近郷の人々に親しまれてきた。

しかし、終戦を期に社会機構の激変に伴い、こうした伝承民俗芸能は全国的に自然消滅の道をたどり、大波野神舞も例外ではなかった。

幸いにも、これを惜しむ有志の発起により、昭和58年8月、大波野地区全戸の加入を得て、神舞保存会を設立し、以来、伝承後継の活動とふるさとづくりに取り組んでいる。

昭和58年4月に田布施町、平成12年12月に山口県の無形文化財に指定され、現在に至っている。



展開例

学習の流れ

- ①大波野神舞の由来や歴史、保存会の活動について話を聞く。
- ②神舞についての説明を聞きながら、実際に神舞を見る。
- ③神舞の道具に触れたり、音を出してみたりして、保存会の人と自由に交流し合う。

授業づくりのポイント

- ◇事前に大波野神舞について、どのようなものを簡単に紹介しておく。
- ◇大波野神舞を大切に思い、伝えていきたいという願いに気付かせる。
- ◇児童一人ひとりがいろいろな道具に触れたり、保存会の人と話をしたりできるように声をかける。

教材研究

◆参考図書等例

『田布施町無形文化財 大波野神舞』 発行者／大波野神舞保存会
(昭和62年発行)

『田布施町史』 発行所／田布施町史編纂委員会
(平成2年発行)

『山口県ホームページ』

★ 先人 ^{たきかくだい} 滝鶴台夫人の生き方にふれよう

主題名：目標に向かって努力する心

資料名：「赤白の二まり」 ^{ふた} 滝鶴台夫人 竹子

ねらい：まりを使って、よい行いができるように努めている竹子さんの気持ちを考えることを通して、困難や苦境に出会ってもくじけずに、継続しようと努力する態度を育てるとともに、自分たちの郷土の先人に誇りをもち、その志を大切にす思いをもつことができるようにする。

〈学習指導要領：第3学年 内容1—（2）に対応〉

教材について

防府市右田地区の唐臼^{からうす}に滝鶴台夫人の生誕地があり、そこに頌徳碑^{しょうとくひ}が建っている。滝鶴台夫人は、着物のたもとに赤い糸を巻いたまりと、白い糸を巻いたまりを入れていて、良い心が起きたときは白いまりに白い糸を巻きそえ、良くない心が起きたときには赤いまりに赤い糸を巻きそえて自分を反省し、白いまりが大きくなるように心がけていたということである。



展開例

学習の流れ

- ①滝鶴台夫人について知り、課題意識をもつ。
- ②「赤白の二まり」を読んで話し合う。
 - ・赤いまりばかりが大きくなる時の竹子さんの気持ち
 - ・まりが同じ大きさになるまで、やり続けることができた理由
- ③学習を振り返り、くじけずに努力する竹子さんの生き方について、感じたことを書く。

授業づくりのポイント

- ◇導入で、町探検で訪れた唐臼公園の碑を想起させ、関心を高められるようにする。
- ◇まりを提示し、どれだけの年月をかけて、どんな気持ちで糸をまいていったのか、竹子の自分の心に負けずに努力を続けるすばらしさを感じることができるようにする。
- ◇地域資料ふるさと読本「右田」や尋常小学校で使われていた教科書のコピーを見せ、自分たちの郷土を誇りに思い、滝鶴台夫人の偉大さにも気付かせたい。
- ◇実際にまりをまくことを体験してから授業をしたり、見えない心を見えるようにしていくために、自分ならどうするかを考えさせたりすることも大切である。

他の取組例

○総合的な学習の時間「まちたんけんをしよう」、社会科「のこしたいもの、つたえたいもの」

★ 花岡のじまんを見付けよう

教材：地域に残る歴史的・文化的資産（花岡八幡宮・あかいぼう 関伽井坊・ふくとくいなり 福德稻荷・きんぶんどう 金分銅）
ねらい：自分たちの町に残る古い建物やそこにまつわる話を調べることにより、地域の歴史的、文化的資産について詳しく知るとともに、ふるさとを大切にしようとする思いをもつ。

〈学習指導要領：各学校の定めた目標による〉

教材について

自然と歴史に彩られた旧山陽道の宿場町「花岡（現在の下松市）」には、歴史的・文化的資産がたくさんある。その中でも、先にあげた四つは、代々受け継ぎながら現在までそこを守っている人がおり、詳しく話を聞くことができる。それらを調べることで、自分たちの住む町のすばらしさに気付くとともに、ふるさとに誇りを持ち、大切にしようという思いをもつことができると考える。



はなおかはちまんぐうれいさいごしんこうえま
花岡八幡宮例祭御神幸絵馬

展開例

学習の流れ

- ① 「花岡のじまん」について考え、調べる計画を立てる。
 - ・ 調べたいもの ・ 調べたいこと
- ② 「花岡のじまん」について調べる。
 - ・ 自分で調べる（インターネット・家の人・本等）。
 - ・ 見学に行き、話を聞く。
 - ・ 調べたことをまとめ、発表する。
- ③ 学習を振り返り、まとめる。

授業づくりのポイント

- ◇ 「花岡地域の探検」を思い起こし、自慢したいものを出し合い、調べる教材を選び出す。
- ◇ 前もって見学を引き受けてくれる場所を引率者の数だけ選び出す。
- ◇ クラスを解体し、自分の調べたいものを決めるようにする。
- ◇ 調べた場所ごとにグループを作り、まとめ、発表するよう促す。
- ◇ 国語の「調べたことを整理して発表しよう」と関連付け、発表の仕方を学ぶようにする。

教材研究



〈花岡八幡宮〉

約1300年前、苦しい暮らしをしていた人々のところへ、「宇佐の神様が着かれたら、山一面に花が咲き、岩清水が湧くだろう。」というお告げがあり、そのとおりになった。皆感謝した。



〈関伽井坊〉

花岡八幡宮の参道にあり、八幡宮の世話をするために建てられた唯一現存する社坊。関伽井坊の「あか」とは、神様や仏様に供える水のことです。境内の井戸から豊かな清水が湧き出ている。



〈福德稻荷〉

白狐伝説により、寺の中に狐が奉られ、神社が建立される。戦後町の復興を願い「狐の嫁入り」と呼ばれる祭りが行われる。



〈金分銅〉

深い井戸から出る花岡八幡宮の水を使って、昔ながらの製法を守り、全て手作業でじっくりと酒作りに取り組んでいる。

他の取組例

- 旧山陽道の宿場町として残る「御茶屋」や「勘場」、「御旅」等の史跡を調べ、花岡八幡宮にある御神幸絵馬の様子と比べながら、萩藩主・毛利氏になったつもりで尋ね歩く。
- 社会の「のこしたいもの、つたえたいもの」と関連付け、調べ・まとめる学習を仕組む。

★ シロヘビのひみつをさぐろう

教材：岩国のシロヘビ

ねらい：シロヘビについて調べ、シロヘビの生態と保護されてきた理由を知り、市民の一人として、これからもシロヘビを守っていききたいという気持ちをもつことができる。

〈学習指導要領：各学校の定めた目標による〉

教材について

岩国市のシロヘビは、国の天然記念物に指定された貴重な生物である。

麻里布小学校は、市内の商業地に位置しているが、校区内には、昔からシロヘビが生息しており、学校のすぐ横に保護施設がある。休み時間に、施設から逃げたシロヘビを目撃した児童も多い。本校の子どもたちにとって、シロヘビは特別なものではなく、身近に存在する親しみのある生き物である。

そこで、校区にあるシロヘビ観覧施設を見学して、成長の様子や飼育上の苦労話などをお聞きしたり、市が発行している冊子や本などからシロヘビの生態について調べたりして、シロヘビが国の天然記念物に指定されている貴重なものであることを学習する。この学習を通して、シロヘビは、大切に保護していかなくてはいけないものであり、私たちの町の自慢であるということに気付かせたい。

ふるさとを愛する心をもってくれることを願い、この学習を仕組んだ。



展開例

学習の流れ

- ①『岩国のシロヘビ』『山口の伝説』を読み、シロヘビに関心をもつ。
- ②シロヘビについて知りたいことを、白蛇保存会発行の冊子や本で調べる。
- ③白蛇観覧施設に見学に行く。
- ④シロヘビ新聞にまとめる。
- ⑤児童集会で、シロヘビをテーマにしたアトラクションやゲームを通して発表する。

授業づくりのポイント

- ◇シロヘビに関する昔話を読むことにより、シロヘビが大切にされてきた理由を考えることができるようにする。
- ◇各自がシロヘビへの疑問点をもち、それを解決するために進んで調べたいという思いをもたせるようにする。
- ◇実際に成長したヘビを触ったり、飼育ケースの中の誕生後間もないヘビを見たりして、ヘビへの関心や愛護の気持ちを高める。
- ◇見学で心に残ったことや、自分が調べた中で一番伝えたいことを中心に、小見出しつきの新聞を書き、それを掲示することで、互いに得た知識・情報を交換する。
- ◇児童集会での発表という形でまとめることで、学習を振り返り、麻里布小の一員として、これからもシロヘビを大切に守っていききたいという気持ちをもつようにする。

教材研究

岩国のシロヘビは、麻里布、今津、川下地区に古くから見られ、大正13年には、国から、天然記念物の生息地域としてこれらの地区が指定され、昭和47年には、ヘビそのものが「岩国のシロヘビ」として天然記念物に指定された。

文献に初めて登場するのが、「岩邑年代記」で、今から約280年前、錦帯橋のある横山千石原でお城の門番によって発見されたと記されている。シロヘビが誕生したのは、それよりさらに100年前、岩国一带に米作りが奨励されていた頃、米倉のねずみを食べていたアオダイショウの色素がなくなり生まれたものと考えられている。人々は、シロヘビを家の守り神として大切にしてきたが、他のヘビは排除してきた。そのため、この地域に、シロヘビが増えていったのであろうと考えられている。

現在、「岩国白蛇保存会」により手厚く保護され、飼育・繁殖が行われている。また、その学術的価値の認識を広めるために、間近に観察することのできる施設を各所に設け、公開している。小学生のときから、シロヘビに関する正しい知識を得、岩国の宝としてシロヘビを守っていきたいという思いをもつことのできる場所に麻里布小学校はある。



(今津観覧所)



(岩国のシロヘビ)



(白蛇神社)

<シロヘビ施設>

場所	施設の内容
・今津町(麻里布小から徒歩10分)	・白蛇資料室、屋外飼育場、屋内飼育場、白蛇神社
・山手町(麻里布小グランド前)	・屋外飼育場
・旭町(東小校区)	・シロヘビ屋外放育場
・尾津町(愛宕小校区)	・シロヘビ屋外放育場
・横山吉香公園(ロープウェイ駅前)	・白蛇観覧室、ビデオ映写

<参考文献>

「白蛇をまもって」	財団法人岩国白蛇保存会
「小中学生のための白蛇教室テキスト」	財団法人岩国白蛇保存会
週刊 日本の天然記念物「岩国のシロヘビ」	小学館
「山口の伝説」	株式会社日本標準

他の取組例

- 道徳・・・生命尊重・動物愛護を観点とし、白蛇の命を助けた平太が、白蛇から恩返しを受けるという話を資料として活用した学習
- 社会・・・3年「のこしたいもの、伝えたいもの」の単元で、これからも大切にし、守っていくべき遺産としての学習

★ 開作のまち、小野田

教材：高泊開作、はまごちようからひ 浜五挺唐樋、やないさんのじょう 楊井三之允

ねらい：高泊開作について学ぶことを通して、地域の生活向上に尽くした先人たちの工夫や苦心について考えることができる。

〈学習指導要領：第3学年及び4学年（5）－ウに対応〉

教材について

- 高泊開作は、現在の山陽小野田市において萩藩直営で行われた事業であり、約400町歩もの規模で行われた県内トップクラスの開作である。その開作事業の責任者として指揮を執ったのが楊井三之允である。開発途中に風雨で堤防が2回決壊するなどの困難に見舞われたが、浜五挺唐樋をつくるなどの知恵をしぼり、開作を完成させた。
- 浜五挺唐樋は排水を行う樋門である。岩盤の硬い位置を選び掘削してつくられている。また、この樋門は海の満ち干きを利用し、自動で開閉する仕組みとなっている。平成8年に国指定史跡となった。
- これらの教材は先人の工夫、苦心を学ぶことのできる地域教材である。また、地域ボランティアや歴史民俗資料館の方から話を聞くなどの見学や調べ学習も行うことができる。



浜五挺唐樋

展開例

学習の流れ	授業づくりのポイント
<p>①昔と今の小野田を地図で比べ、どうして地形が違うのかを考える（1時）。</p> <p>②なぜ小野田の人は新しい土地を作ったのか、その理由について考える（2時）。</p> <p>③小野田の人はどのようにして開作を行ったのか、その方法について考える（3時）。</p> <p>④洪水を乗り越えて、どのように開作を完成させたのかを考える（4時）。</p> <p>⑤浜五挺唐樋を見学する（5・6・7時）。</p> <p>⑥開作が完成して、小野田がどのように変化したのか考える（8時）。</p> <p>⑦先人たちの功績を紙芝居にまとめる（9・10時）。</p>	<p>◇開作前後の地図を比較し、その違いに気付かせる。</p> <p>◇開作前後の米の収穫高のグラフを比較し、高泊神社の碑文を読み取ることで、開作の必要性に気付かせる。</p> <p>◇開作風景の図、堤防見取り図、堤防の位置が描かれた地図を用い、どのように開作が行われたのか、読み取らせる。</p> <p>◇浜五挺唐樋の写真、唐樋の見取り図、模型を用いて、水を自動排水する仕組みを視覚化する。</p> <p>◇山陽小野田市歴史民俗資料館の職員もしくは地域ボランティアに同行してもらい、説明をしていただく。</p> <p>◇開作前後の米の収穫高、戸数の変化をグラフを比較し読み取ることで、先人たちの功績を理解できるようにする。</p> <p>◇個人やグループなど、まとめ方は学級の実態に応じて行う。</p>

教材研究

- 山陽小野田市史（「通史」、「民俗と文化財」）を利用。特に高泊開作新田記に高泊開作や浜五挺唐樋のつくられた経緯等、詳しいことが記されている。
- 見学先として、浜五挺唐樋、汐止記念石、高泊神社が考えられる。
- 地域ボランティアに開作についての話を聞くことができる。
- 山陽小野田市歴史民俗資料館には開作風景の予想図が掲示されており、見学したり話を聞いたりすることができる。
- 山陽小野田市の社会科副読本にも児童向けに書かれた内容が記載されている（開作予想図、浜五挺唐樋の写真と見取り図、開作場所の地図など）。



浜五挺唐樋看板



浜五挺唐樋



高泊神社

(※上記の写真の場所は、いずれも見学地として活用できる。)



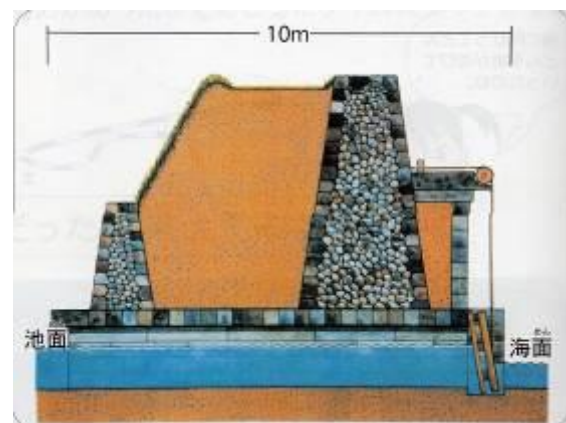
高泊神社石碑



汐止記念石



開作風景予想図



浜五挺唐樋 見取り図

(※上記の2点の資料は、いずれも山陽小野田市社会科副読本に記載されている。)

他の取組例

- 3年生の社会科「わたしのまち、みんなのまち」において、地域の特徴として扱うことができる。
- 3、4年生の道徳の授業において、「1 主として自分自身に関すること (2) 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。」や「4 主として集団や社会とのかかわりに関すること (5) 郷土の伝統と文化を大切にし、郷土を愛する心をもつ。」の領域においても、取り扱うことができると考える。

★ 下松キラリ発見

教材：下松べんけい号・笠戸島・稲穂祭・さんさ踊り・来巻神舞・切山歌舞伎・久原房之助
長岡外史

ねらい：地域の産業、文化、人々の暮らし、伝統や文化について調べ、ふるさとのよさを知りそれらを受け継ぎ、更に発展していくよう、未来に希望や願いをもつことができる。

<学習指導要領：各学校の定めた目標による>

教材について

ふるさと下松市のすてきなところ「キラリ」を発見・紹介する学習。「きょうど下松」をもとに、自分ももっと詳しく調べてみたい「キラリ」を見付け、同じ課題をもった児童がグループを作って、調べたり、まとめたり、発表したりする活動を仕組むことができる。

また、国語科「調べたことをポスター発表で報告しよう」（東京書籍）の学習を生かして、まとめることが可能な教材でもある。

自ら課題を見付け、自ら学ぶこと、また、学び方やものの考え方を身に付ける探求的な活動に適した教材である。



展開例

学習の流れ

- ①自分が調べていきたい内容を明確にし、グループを作る。
- ②「くだまつ知っちょる検定」を実施する。
- ③ゲストティチャーの方々から各教材について話を聞く。
- ④校内の児童や先生方にアンケートを実施し、集計する。
- ⑤新聞を作成する。
- ⑥3年生に向けて発表する。
- ⑦ほしらんど下松（中央公民館）に掲示する。

授業づくりのポイント

- ◇調べ方、まとめ方、発表の場のもち方など、今後の学習の見通しをもつようにする。
- ◇下松市作成のDVDを活用する。新聞の中にも、検定コーナーを取り入れる。
- ◇事前にもっと知りたいことや質問事項を考えておく。事後、礼状を書く。
- ◇アンケートを実施する対象者のことを考えて、文字の大きさや文面を考える。
- ◇割り付けや担当を決め、分かりやすい紙面をめざす。
- ◇練習時間を確保し、自信をもって発表できるようにする
- ◇書いていただいた感想を投かんするポストを設置する。

教材研究

- 「くだまつ知っちょる検定」DVD・・・下松市役所よりレンタル可能
- べんけい号を愛する会 ○長岡外史の像・・・笠戸島
- 福德稲荷（稲穂祭） ○久原房之助の像・・・山口県立下松工業高等学校
- 切山歌舞伎保存会 ○さんさ踊り・・・毎年8月久保中学校にて開催

★ 古い道具と昔の暮らし

教材：小鯖小歴史民俗資料室にある、地域で使われてきた古い道具
ねらい：古い道具を調べ、昔の暮らしの様子についてイメージできるようになる。

〈学習指導要領：第3学年及び第4学年 内容(5)アに対応〉

教材について

山口市立小鯖小学校には歴史民俗資料室があり、地域で実際に使用されてきたさまざまな生活道具や農具が寄贈され、展示されている。展示物のほとんどは、実際に触れたり使用したりすることができる。

〔展示内容〕

(生活資料) 農家室内再現、生活用具、家具、玩具、教科書、新聞等

(農具資料) すき、まぐわ、田植定規、脱穀機、唐箕等



展開例

学習の流れ

- ① 昔の道具を見て、使い方を想像してみよう。
- ② 先生や昔の道具の使い方を知る人から、使い方の説明を聞き、実際に触れてみよう。
- ③ 実際に使ってみてわかったことや、説明を聞いてわかったことをまとめ、発表しよう。

授業づくりのポイント

- ◇ 昔の道具を見て、不思議におもったところをメモしたり、写真にとったりして記録するよう伝える。
- ◇ 何に使うのか、どう使うのかを、自分自身で想像してみることが重要であることを伝える。
- ◇ 壊したり、けがをしたりすることがないように、事前に見学の留意点を伝える。

教材研究 (パンフレットから)

無駄のない生活用具

何に使うのか、どうやって使うのか、不思議な生活用具がたくさんあります。電気もガスもない時代に活躍したエコで機能的な用具の数々です。触れてみて、その温もりを感じてください。

農家室内配置図



薪や炭を使った生活は、今とは全く違い家事は大変でした。

小鯖で活躍した農具

展示している各種の農具は、古くは江戸末期から明治時代のもの、昭和初期及び戦後間もない時期のものまで多岐にわたっています。お米を大切にした農家の苦勞がしのべれます。

田起こしや代かき等の作業は、原動機が普及する以前は、牛馬が大切な動力でした。

田植・草取り作業などもすべて人力で行っていました。

脱穀機も木製から金属製へと進歩し作業が一段とはかどるようになりました。



★ 伝統を受け継ぐ

教材：瀬田八幡宮のお祭り

ねらい：郷土の行事などのよさに気付き、郷土の人々や文化に親しもうとする心情を育てる。

〈学習指導要領：道徳4（5）郷土愛 に対応〉

教材について

瀬田八幡宮は和木町にある神社で、現在の本殿は1715年に吉川経永によって建立されたものである。古くからの神社建築様式を継承し、県下でも数少ない18世紀初頭の神社建築である。この瀬田八幡宮では、毎年10月第4日曜日に例大祭・神幸祭が盛大に行われ、巫女舞（みこまい）や子どもみこしなどに、多くの子どもたちが参加していた。21の地区が、手作りの山車を引いて町内を練り歩く神幸祭は、壮観であったそうである。しかし、近年、この神幸祭に山車を出しているのは、1～2地区になってしまった。

地域の行事に参加したり、郷土の人々とふれあったりすることは、とても大切なことである。郷土を知り、自分にもできることを見付け、伝統を残していこうとする心を育てることも重要となってくる。

県内の各地にも、祭りなどの伝統行事が多数ある。社会の変化に伴って、これらの行事に参加する子どもたちが減少している実態も多いのではないだろうか。それぞれの地域に即した身近な資料を作成することは、自分たちの住んでいる地域をもう一度振り返り、大切にしていこうとする心を育むために有効である。



展開例

学習の流れ

- ① 祭りに参加した経験について想起し、知っていることを発表する。
- ② 資料から、祭りに参加している人々の思いや願いについて話し合う。
- ③ 自分の住んでいる町の行事に参加した経験を話し合う。

授業づくりのポイント

- ◇ 導入の工夫を図るとともに、地域の行事であることを示し、価値への方向付けをする。
- ◇ 祭りに参加して得ることができた成就感、郷土への意識の高まりに共感させる。
- ◇ 郷土への愛着を感じ、大切なものを継承していこうとする気持ちに気付かせる。
- ◇ 自分の住んでいる町について、経験をもとに、これからどう行動したいか考えさせる。

資料作成上の留意点

- 祭りの準備の様子をビデオカメラで記録しながら取材する。本事例の場合、祭りの約1か月前から、巫女舞の練習や地区の山車作りが行われている。祭り当日の様子についても、参加者と見物人の両方にインタビューし、地域の祭りとして大切に思う双方の思いや願いを引き出したい。
- 取材したビデオを編集して資料とすることもできるが、中心場面は読み物にした方が、話をより深めることができる。いずれも、児童に考えさせたいことを明確にして資料を作成する必要がある。

他の取組例

- 3・4年社会科「地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事」で、資料として活用
- 総合的な学習の時間で、地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動等で活用

★ 地域の産業を調べよう ～周防大島のミカン栽培～

教材：周防大島の農業 ミカン

ねらい：ミカンに関わる人々の仕事について関心を持ち、ミカンの栽培から出荷までの工程を学びながら、それぞれの仕事の特色や工夫を理解することができる。

〈学習指導要領：第3学年及び第4学年 内容（2）ウに対応〉

教材について

周防大島のミカン栽培は紀州で栽培方法を学び、苗木を持ち帰った藤井彦右衛門によって始められた。その後ミカン栽培は全島に広まり、今では山口県内で流通するミカンの約 80 パーセントを生産している。周防大島で生まれた品種「せとみ」は、一定の果実品質基準をクリアすることで「ゆめほっぺ」として販売され、県内だけでなく兵庫県や神奈川県、東京都にも出荷される。周防大島は温暖で適度な雨量があり、ミカンの栽培に適した土地である。また直射日光と瀬戸内海や石垣に反射した日光によって、果実はより甘くなる。これらのことから、ミカンは周防大島を代表する農産物であると言える。しかし、生産者の高齢化やミカンの消費量低下により、周防大島におけるミカンの生産量は、年々減少しているという厳しい現状もある。



授業ではミカン農家の仕事を実際に体験したり、柑きつ振興センターや選果場の見学をしたりすることで、地域の農業について理解を深め、ミカンにかかわる人々の努力や工夫を知るとともに、農産物の生産から消費までの流れを学ぶことができる。また、生産者の「より良い品質のミカンを消費者に届けたい」という思いを子どもたちが肌で感じ、地域の産業を絶やすまいと、より自分たちの地域について愛着を深められる。

展開例

学習の流れ

- ① 周防大島のミカン栽培
「周防大島にはどんな農作物があるのかな」
- ② ミカン農園の見学
「ミカンはどのように作られているのかな」
- ③ 山口県柑きつ振興センターの見学
「おいしいミカン作りにはどんなヒミツがあるのかな」
- ④ 選果場の見学
「ミカンはどのようにして出荷されているのかな」
- ⑤ 学習のまとめ

授業づくりのポイント

- ◇総合的な学習の時間との関連を図り、できるだけ年間を通して学習できるようにする。
- ◇実際に作業をし、ミカン農家の仕事を体験的に学ぶことができるようにする。
- ◇柑きつ振興センターでの品種改良や栽培方法について調べることで、おいしいミカン作りにはミカン農家以外にも多くの人々がかかわっていることに気付けるようにする。
- ◇選果場を見学することで、収穫されたミカンが「商品」となって出荷されていくことを理解することができるようにする。

教材研究

- 山口県農林総合技術センター農業技術部 柑きつ振興センター
(山口県大島郡周防大島町大字東安下庄 1209-1)
ミカンの品種改良や農家への技術指導を行っている。

- J A山口大島第一選果場
(山口県大島郡周防大島町大字久賀 5389-1)
機械による全自動の選果場である。光センサーを導入しており、実の大きさ、糖度、傷の有無などを瞬時にチェックすることができる。極早生ミカンの収穫が始まる10月中旬から稼働し、一日に約80トンの柑橘類を選果できる。

- 公益財団法人 山口県ひとづくり財団
(山口県山口市秋穂二島 1062)
藤井彦右衛門をはじめ、郷土の先人について学ぶことができる。

- 藤井彦右衛門翁頌徳碑 (山口県大島郡周防大島町大字日前浜)
藤井彦右衛門の功績と徳を称えた石碑。
- 山本万之丞翁頌徳碑 (山口県大島郡周防大島町長崎)
山本万之丞は実りのよいミカンの枝を接ぎ木し、「万之丞ミカン」や「山本系ミカン」と呼ばれる優れた品種を生み出した。山本万之丞のミカンは品評会で認められ、大島のミカンが知られていくきっかけをつくった。



<糖度計で測定>



<選果場の様子>



<出荷前のミカン>

他の取組例

- 総合的な学習の時間に、より体験活動を重視しながら調べ学習を実施する。
- 道徳の時間に、郷土の発展のために尽くした藤井彦右衛門や山本万之丞の思いを学ぶ。

★浅江の宝『ニジガハマギク』

教材：ニジガハマギク

ねらい：地域の固有種ニジガハマギクの保存や繁殖、それらにかかわっている地域の方々の思いや願いなどについて、地域の方への取材、体験活動、観察や資料による調べ学習などの活動を通して、ニジガハマギクを大切にしていこうとする気持ちや態度を育てることができる。

〈学習指導要領：各学校の定めた目標による〉

教材について

ニジガハマギクは、ノジギクとサンインギクの雑種で非常に珍しく、昭和7年（1916年）に牧野富太郎博士が名を付けた。光市立浅江小学校の校章や校歌の歌詞に使われているなじみの深い花である。しかし、年々その数が減少してきたため、地域の有志でつくられた潮音寺山里山作り推進部の方々が中心となり、保存活動が始まった。学校としてこの保存活動に協力し、ニジガハマギクを大切にすることは、郷土を愛する心につながると考え、校地内にニジガハマギクを増やし、地域にその存在を発信していくことにした。



展開例

学習の流れ

- ① 5年生との引継ぎの会を行う。（5月）
- ② ニジガハマギクの挿し芽を行う。（6月）
 - ・ニジガハマギクの創作紙芝居から歴史を学ぶ。
 - ・潮音寺山里山作り推進部の方々と、挿し芽の体験活動を行う。
- ③ ニジガハマギクの定植を行う。（10月）
 - ・潮音寺山里山作り推進部の方々と定植の体験活動を行う。
 - ・創作ニジガハマギクの歌「明日への道しるべ」を合唱する。
- ④ ワークショップでニジガハマギクについて発表する。
 - ・クイズ、紙芝居、しおり作り、かるた
- ⑤ ニジガハマギクを剪定し来年に備える。（2月）

授業づくりのポイント

- ◇ 昨年育てた5年生との引継ぎの会を設定し、上級生のこの活動に対する思いや願いを引き継ごうとする意欲を醸成する。
- ◇ 挿し芽用のニジガハマギクの準備の段階から体験させ、探究活動のきっかけとする。
- ◇ 定植場所の選定や畑作り、定植の会のプログラム作成、ニジガハマギクを題材にした「明日への道しるべ」の歌の発表を子どもが主体的に企画できるようにする。
- ◇ ニジガハマギクに対する思いや願いが伝えられるワークショップになるように、話合いの場を十分確保し、子どもの「納得」を尊重しながら助言していく。

他の取組例

○ニジガハマギク

挿し芽をする際は、ニジガハマギクを10cm程度切ったものを準備し、小粒の赤玉土と鹿沼土を半分ずつ混ぜたものをポットに入れ2、3本挿し芽をする。日の当たらない場所に置いて水やりを行うが、2週間位してから根が出たら、日の当たる場所に移動する。

○潮音寺山里山づくり推進部

浅江小学校内にある潮音寺山を毎月1回整備している、地域の方の組織。潮音寺山をテーマにした総合的な学習の時間や理科の動植物の観察学習などでも、協力や支援を受けている。

○光紙芝居の会

数々の光市を題材とした紙芝居を作り、披露している。



他の取組例

- 国語科で、ニジガハマギク紹介リーフレット作り。
- 光市教育フォーラムで、4年生と5年生の代表児童が取組を発表。
- 光市音楽祭で、ニジガハマギクを題材にした「明日への道しるべ」の披露。
- 「こどもとおとなの紙芝居」で、代表児童が、紙芝居「ニジガハマギク」と自作紙芝居を公演。

★ 匠の技を引き継いで ～金魚ちょうちん・柳井縞^{じま}～

教材：金魚ちょうちん・柳井縞

ねらい：伝統工芸品の制作にかかわる人々にふれ、その歴史について調べることで、地域に残る伝統工業を知り、そのよさや工夫を考えることができる。

〈学習指導要領：第3学年及び第4学年 内容(7)アに対応〉

教材について

金魚ちょうちんは、一説には、今から150年前、柳井津金屋で蠟燭屋^{ろうそく}を営んでいた、熊谷林三郎（さかい屋）という人が、青森のねぶたをヒントに、伝統織物の柳井縞の染料を用いて、創始したと言われている。林三郎の死後、息子の宮本定治が金魚ちょうちんづくりを継いだ。その後は、長和定二氏が引き継ぎ、戦後、周防大島町の上領芳宏氏が長和氏の指導を受けて、金魚ちょうちんを復活させた。

現在は、駅前や街中、商店街などあらゆる場所に飾られ、柳井市のシンボルになっている。夏には、金魚ちょうちん祭りも開催され、市民手作りの金魚ちょうちんが数多く飾られる。

愛嬌^{まじょう}があり、歴史のある金魚ちょうちんについて調べていくことで、伝統工業が地域の活性化に果たす役割を知り、地元の工芸品のよさに気付いていくであろう。また、柳井縞についても、関連させて指導することで、柳井市に引き継がれている伝統工業を認識し、ふるさとへの愛着をもつことにもつながるであろう。



展開例

学習の流れ	授業づくりのポイント
<p>①金魚ちょうちんから連想するものは何か。</p> <p>②金魚ちょうちんづくりは、なぜ、いろいろな人に引き継がれていったのだろうか。</p> <p>③金魚ちょうちんがいろいろなところで見られるのはなぜか。</p> <p>④地元の人々は、どのような気持ちで、金魚ちょうちんづくりや、金魚ちょうちん祭りに携わっているのだろうか。</p> <p>※次時以降に、柳井縞についてもふれる。</p>	<p>◇実物を用意したり、実際に金魚ちょうちんをつくったりすることで、意欲付けを行う。</p> <p>◇長い年月をかけて、技術や技法が引き継がれていることや、途絶えそうになっても、再度復活したことを紹介し、当時の人々の苦労や努力に気付くようにする。</p> <p>◇身の回りで見られる場所を想起させ、地元の工芸品として根付いていることに気付くことができるようにする。</p> <p>◇柳井の有名な伝統工芸品である、柳井縞についても、創始当時の金魚ちょうちんとの関連からふれることで、柳井市では、様々な形で伝統工業が残り、人々によって引き継がれていることを考えることができるようにする。</p>

教材研究

○金魚ちょうちん製作・柳井縞の織物体験のできる場所

★ やない西蔵

(柳井市柳井 3700-8 0820-23-2490)



他の取組例

○総合的な学習の時間で、「地域自慢を探そう」等の学習として扱う。

★ 下松の塩田(きょう土を開く)

教材：下松にあった塩田

ねらい：身近な地域について、調べたり、その発展に尽くした人々の働きについて知ったりすることを通して、先人の苦労や工夫について考えることができる。

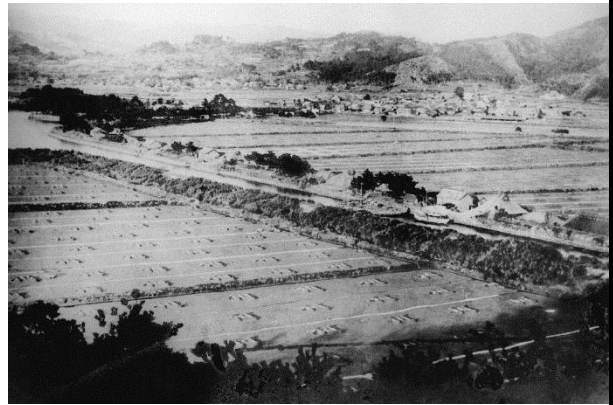
(学習指導要領：社会科第3学年及び4学年 内容(1)ア、(5)ウに対応)

教材について

下松市は、江戸時代に開作（遠浅の海に堤防を築き、干拓すること）で土地を広げていた。開作地の多くは、瀬戸内の温暖な気候を利用した塩田となり下松の発展の一助となった。

塩田は明治時代から昭和30年代までに廃止されていった。しかし、その跡地に鉄道関係、鉄板関係、石油関係などの工場がつくられ、町は再び発展していった。

現在、塩田があったことは、過去の写真からしか確かめることができない。そこで、下松と塩田の関係について資料を使って調べたり、話を聞いたりすることで、郷土下松の歴史について興味・関心をもってほしいと考えた。



展開例

学習の流れ

- ① 写真を見て、自分の気になった事柄や疑問に思ったことを発表する。
- ② 気になった事柄や疑問に思ったことを調べて発表する。
- ③ 下松市の塩田について話を聞く。
 - ・働く人の仕事と苦労
 - ・塩田跡地の利用
 - ・今に残る塩田の証拠

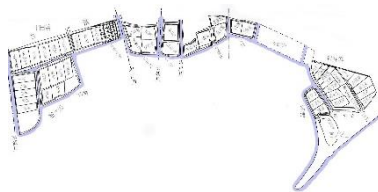
授業づくりのポイント

- ◇ 1枚の『塩田』の写真の提示のみを行う。
(児童に一人一枚ずつ配付する。)
- ◇ 写真から気付いたことや、思ったことを自由に発表すよう促す。
- ◇ 手元にある資料を使い、考察することを促す。
 - ・国語辞典/「塩田」の読み方、意味
 - ・百科事典/塩田の役割
 - ・社会科副読本「わたしたちのきょうど 下松」
- ◇ 下松市の塩田について、疑問点に答えたり、塩田についての補足説明を行ったりする。

教材



・『製塩』と記された電柱の写真（製塩工場〔専売公社〕があった。）



・下松市沿岸の図
(下松市の沿岸は、ほとんどが塩田であった。)

『覧海軒』の絵図(文書館蔵)
・塩田の大地主「宮の洲屋」の、旅人に「お城のようだ。」と評されたという自宅の絵図。

★ ブランドみそを作ろう

教材：ダイズ、みそ

ねらい：地域の方々とのかかわりを深めながら、大豆栽培やみそづくりを行うことを通して、平生のよさと昔から伝わる日本の文化と知恵にふれる。

〈学習指導要領：各学校の定めた目標による〉

教材について

平生町の特産品である有機みそを作るために、子どもたちは、地域ボランティアの方々のかかわりを借りながら、ダイズを栽培し収穫する。そして、収穫したダイズを加工してみそづくりを体験する。また、これらの活動を通して、自分たちの食を見つめ直す。ひらお特産品研究開発部や農林事務所から講師を招いての学習や、地域ボランティアの方々のお力添えをいただきながら様々な体験活動に取り組むことにより、ふるさと平生に伝わっている食の文化や人々の生活の知恵などについても気付くことができると思う。



展開例

学習の流れ

〈ダイズの種まき〉 (6月)

- ①自給率と地産地消について話を聞く。
- ②ダイズ栽培について調べる。
- ③地域ボランティアの方と種まきをする。

〈ダイズの収穫〉

〈ブランドみそ作り〉 (11月)

- ①みそ作りについての説明を聞く。
- ②みそ作りをまとめたDVDを視聴する。
- ③地域ボランティアの方とみそを作る。

〈今後の予告〉

5年調理実習「ごはんのみそ汁」で使用

授業づくりのポイント

- ◇農林事務所から講師を招き、ダイズに関する自給率や地産地消についての話、平生町の特産品であるみその話をしていただき、子どもたちが興味と見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。
- ◇ひらお特産品研究開発部から講師を招き、みそ作りの工程や手順について説明を聞き、班ごとに計画を立てて作業を行うことができるようにする。
- ◇地域ボランティアの方に質問をしたり、確かめたりしながら学んだことをまとめておくようにする。

教材研究

- ・各市町の特産品をもとにして教材化を図ることが可能である。本町の場合は、製造工程をまとめたDVDを活用した。
- ・他学年における「食」に関する学習や学校給食と関連付けるなどの工夫も考えられる。
 - 2年：グリーンピースを栽培し、給食でピースご飯を食べる。
 - 3年：地域の食材を学ぶことを通して、野菜栽培に興味をもつ。
 - 4年：ダイズづくり、みそづくりを通して、昔から伝わる食の文化と知恵を学ぶ。
 - 5年：調理実習 ブランドみそを使って「ごはんのみそ汁」を作る。

他の取組例

- 生活 「植物を育てよう」
- 社会 「地域にある生産や販売に関する仕事」「地域の人々が受け継いできたこと」「我が国の農業、国民の食生活」
- 理科 「植物の育ち方」「植物の発芽、成長、結実」「植物の養分と水の通り道」

★ はたらく人とわたしたちの暮らし～赤間すずりをつくる工房～

教材：赤間すずり

ねらい：赤間すずりのつくり方を知るとともに、働く人の工夫や努力に気付くことができる。

〈学習指導要領：第3学年及び第4学年 内容(2)イに対応〉

教材について

赤間すずりは、日本のすずりの三大産地の一つであり、山口県宇部市、下関市で製作されている。国の伝統的工芸品に指定されている。

800年以上前から作られており、すずり石の中でも数少ない赤色系の石である。赤間すずりの名は、現在の下関市、赤間関（あかまがせき）で作られ始めたことに由来する。赤間すずりの原石は、輝緑凝灰岩に属する赤間石で、山口県宇部市の北部万倉岩滝（まぐら・いわたき）の奥地で採掘される。赤間石は質が固く緻密で石眼や美しい紋様があり、しかも粘りがあるため細工がしやすく、すずり石として優れた条件をもっている。また、むらなくほうぼうがあり密立しているため、よく磨墨（まぼく）、発墨（はつぼく）し、得墨も早く、さらっとのびの良い墨汁を得ることができる。

昭和52年、伝統工芸品・伝統工芸士として国から認定された。この伝統工芸品認定に先立ち昭和51年に、赤間すずり生産協同組合が発足している（すずりの伝統工芸品認定は、山口県の赤間すずりと、宮城県の雄勝すずりの2件のみである。）。現在、原石の確保、後継者不足など様々な問題を抱えているが、文化的財産を残そうと努力されている。伝統工芸の継承について学ぶことに適した教材である。



展開例

学習の流れ

- ①赤間すずりとは、どんなものだろう。
 - ・高いものでは150万円を超える高級すずり。
 - ・日本のすずりの3大産地の一つ、宇部市で作られる。
 - ・800年以上前から作られている。
 - ・国の伝統工芸品に指定されている。
 - ・赤間関（現下関市）で採れた石を使っていたことから命名。
- ②赤間すずりは、どのように作られているのか調べよう。
- ③赤間すずりの作り方をまとめよう。
- ④赤間すずりを作る人の苦労や思いを知り、学習をまとめたり、考えたことを話し合ったりしよう。
 - ・すべて手作業で、すずり作りで一人前になるには、10年以上かかる。
 - ・後継者不足を解消し、文化的財産を守り続け

授業づくりのポイント

- ◇販売されている赤間すずりの写真を見て値段を予想したり、赤間すずりクイズに答えたりする活動を通して、赤間すずりがどのようなものであるかを知る。
- ◇少人数グループで、手順カードや写真を操作し、作り方を考える。
- ◇NHKの映像やパンフレット、副読本の資料等で作り方を確認しまとめる。
- ◇赤間すずりを作っている人のインタビュー資料から、働く人の努力や思いを理解する。

教材研究

- インターネットで、赤間すずりの値段や資料を調べることができる。
- 山口県赤間すずり生産共同組合への連絡により、「赤間すずりの里」の社会見学が可能。
- 赤間すずりについてのパンフレット「伝統工芸 赤間すずり」に石の採掘や作り方等が説明してある。（山口県赤間すずり生産共同組合にて入手可能）
- インターネットの「NHK映像マップみちしる～新日本風土記アーカイブス～『赤間すずり～すずりの文化を後世に～山口県宇部市』」（2013年放送）で赤間すずりの採掘や作り方、製作者についての映像を視聴できる。
- 宇部市の副読本「わたしたちのうべ」

他の取組例

- 社会見学の際に「赤間すずりの里」を見学する。
- 総合的な学習の時間で、工場の仕事についての調べ学習に取り組む。

★ 長登銅山跡～奈良の大仏のふるさと～

教材：長登銅山

ねらい：奈良の大仏建立に向けた長登銅山の役割を調べる活動を通して、地方と国とのかかわりについて理解することができる。

〈学習指導要領：第6学年内容（1）イに対応〉

教材について

長登銅山は、今から1300年前頃、役所が置かれ、各地からたくさんの人を集めて、銅鉱石を掘ったり、掘った鉱石を溶かして金属の銅を取り出したりしていた。

銅は長登から運ばれ、奈良の大仏の原料として使われた。そのため、長登銅山は奈良の大仏のふるさとと呼ばれている。

現在、長登銅山跡は国史跡指定となって、昔の遺跡が保存されている。



展開例

学習の流れ

- ①奈良の大仏は「誰の願い」で作られたのかを調べる
 - ・聖武天皇の願い
- ②奈良の大仏に使われた材料の種類と量について調べる。
 - ・銅 約499トン
 - ・すず 約8.5トン
 - ・水銀 約2.5トン
 - ・金 約0.4トン
- ③大量の銅が、どこから、どのように運ばれてきたのかを調べる。
 - ・長登銅山から多くの銅が運ばれていた。
 - ・運搬（馬、船）
- ④聖武天皇は、なぜ、たくさんの銅を集めることができたのかを話し合う。
 - ・大仏建立の目的
 - ・仏教の普及（行基の働き）
 - ・律令制度の普及

授業づくりのポイント

- ◇詔から、大仏建立に向けた聖武天皇の願いを理解する。
 - ・聖武天皇の詔
- ◇資料をもとに、大仏建立に使われた材料を調べる。
 - ・材料の量をグラフ化した資料の提示
 - ・グラフを見て、気づきを記入
 - ・気づきの発表
- ◇白地図に、銅がどこからどのようにして集められてきたのかを記入する。
 - ・美祢市美東町の長登銅山産出の銅
 - ・馬や船による運搬
- ◇資料をもとに、大量の銅を集めることができた理由について文章にまとめる。
 - ・グループによる討議

教材研究

○長登銅山

長登銅山の銅は、馬で瀬戸内の港まで行き、そこから船に乗せて運んでいた。奈良までは、運ぶのに約20日間かかっていたようである。

現在、長登銅山跡は、国史跡指定となって、昔の遺跡が保存されている。大仏ミュージアム（長登銅山文化交流館）では、様々な出土品を見学することができる。



★ I want to go to Akiyoshi Plateau ～山口県を旅しちゃろう～

教材：秋吉台

ねらい：山口県内の名所・特産品等について、「私は、～へ行きたい。～が好きだからです。～が見たいからです。」という英語の表現に当てはめて表現することを通して、英語表現に慣れ親しむ。

〈学習指導要領：第6学年の活動 内容1(2)に対応〉

教材について

秋吉台は、東西 17 km、南北 8 km、面積 130 km²の日本最大のカルスト台地であり、国立公園で特別天然記念物の指定を受けている。石灰岩が露出するラビエ、凹地のドリーネやウバーレなど、起伏に富んだ広大な光景が広がっている。大地を構成する石灰岩は3億年もの昔のサンゴ礁が固まったもので、かつて海だったこの地に住んでいたサンゴやフズリナなどの化石がよく保存されている。子どもたちは、理科「大地のつくり」でも学習しており、理解が深まっている。

同様に理科で学習した「須佐ホルンフェルス」や、秋吉台と並んで国立公園に指定されている「北長門海岸（角島）」等も本時の学習で取り上げることで、全国に誇れる山口県のよさにふれ、ふるさとへの誇りと愛着をもつことへつなげたいと考えた。



展開例

学習の流れ

- ①秋吉台の写真の一部を見て、“What’s this?”の問いに答える。
- ②“I want to go to Akiyoshi Plateau. I want to see it.”という英文(★)を聞く。
- ③県内の他の名所や旧跡等についても同様の英文を聞き、英語の表現に慣れ親しむ。
- ④友達と行きたい場所について聞き合う質問ゲームをする。
- ⑤本時で学習した英語表現を使って、『山口県ビンゴゲーム』をする。

授業づくりのポイント

- ◇質問ゲームをしながら、少しずつ考えるヒント(“It is very big.” “It is famous.”等)を与え、子どもたちの興味・関心を引くように工夫する。
- ◇子どもたちが秋吉台と気付いた時点で、英文(★)を提示し、英文と意味を結び付けるようにする。
- ◇山口県の地図上に写真を並べて板書していくことで、山口県の各地に名所や旧跡等があることに気付いたり、自分の行きたい場所を選んだりしやすくする。また、名所について簡単な説明を加え、その価値や特徴について理解を深められるようにする。
- ◇“Where do you want to go?” “I want to go to ～. I want to see ～. I like ～.”の表現を繰り返し、慣れ親しめるようにする。
- ◇④で聞いた友達の行きたい場所を、⑤で使用するビンゴカードに書くようにすることで、多くの友達と会話をする必要性を高める。

教材研究

- 須佐ホルンフェルス(萩市)：約1400万年前にできたと言われる黒と淡灰色の縞模様の断崖。砂と泥が交互に堆積し、その地層にマグマが貫入して一部が焼かれ、ホルンフェルスと呼ばれる硬い岩ができた。
- 北長門海岸国立公園 角島(下関市)：県内に三つある国立公園の一つ。角島大橋が開通(平成12年)し、多くの観光客が県内外から訪れる。「角島灯台」は灯台50選に選ばれている。
- 「やまぐちQ&A-住み良さ日本一のきらめき」山口県総合政策部政策企画課(平成20年9月)
- ふるさと学習コンテンツ「知っちょる!?やまぐち」山口県教育委員会(平成14年3月～)
- 「知っ得やまぐち講座生がつくった山口県ガイド」(財)山口県ひとづくり財団(平成23年9月)

他の取組例

- 山口県の各地の特産品を取り上げ、“What’s this? It’s a ～.”の表現に慣れ親しむ。
- 社会科で学習した山口県の偉人を取り上げ、その業績について理解を深めるとともに、“Who’s this? It’s ～.”の表現に慣れ親しむ。

★ 高杉晋作の町・吉田の良さを伝えよう ～ようこそ東行庵へ～

教材：高杉晋作と東行庵

ねらい：高杉晋作と東行庵のことを調べ、手作りパンフレットを作成し、観光客へ配布することを通して、吉田の良さを発信し、ふるさとに愛着と誇りをもつ。



〈学習指導要領：各学校の定めた目標による〉

教材について

下関市吉田地区には、高杉晋作ゆかりの東行庵がある。晋作は奇兵隊を創設し、近代日本のあけぼのとなる明治維新の礎を築いた幕末の志士である。没後、東行庵に墓が建立され、今もぼだいが弔われている。

昨年は、奇兵隊決起 150 周年を迎え、注目が集まっている中、本校では「晋作プロジェクト」を立ち上げた。全校児童が、計画的かつ系統的に「高杉晋作や東行庵」についての学習を推進している。

特に6年生は、観光客へのアピールを行う活動を通して、より深く強く吉田の良さを理解するとともに、「ふるさと吉田」を大切に思う心情を育むことができる。



展開例

学習の流れ

- ①高杉晋作や東行庵について調べる。
- ②晋作について特に伝えたい事柄や東行庵の観光おすすめスポットを取り出す。
- ③6グループに分かれて内容が重ならないように、パンフレットを作成する。
- ④配布場所の選定、役割分担をする。
- ⑤晋作、東行庵以外のことでも吉田の良さが伝えられるようにまとめておく。
- ⑥吉田観光大使となり、東行庵「もみじ祭り」にいられている観光客に向け、パンフレットを配布し、吉田の良さをアピールする。

授業づくりのポイント

- ◇実際に東行庵に行き、東行記念館学芸員さんの話を聞く。晋作のお墓や像、観光スポットを調べて歩く。
- ◇地域の方との連携を密にし、児童の安全管理等の協力を求める。
- ◇吉田地区にある東行庵以外の歴史的施設なども関連付けて調べるようにする。
- ◇観光スポットを、スタンプラリー形式で回ってもらうなどの工夫をする。
- ◇参加記念として、手作りのしおりをプレゼントする。

教材研究

【東行庵】

1867年に死去した高杉晋作の遺骸は、遺言により奇兵隊の本拠地に近い吉田清水山に葬られた。「東行」は晋作の号である。「東行庵」は、晋作の死後、「おうの」（谷梅処）が晋作を弔った庵である。

また「山陽花の寺 24 か寺」の第八番礼所であり、春は桜、菖蒲、秋は紅葉、冬は梅と四季折々に美しい花を咲かせる風光明媚な寺である。特に菖蒲まつり、紅葉まつりのシーズンには、沢山の観光客が訪れる。



東行庵



晋作の墓



晋作顕彰碑



晋作像



菖蒲池

他の取組例

1・2年：晋作像や東行庵のスケッチ
5年：東行庵の記念碑調べ、マップ作り

3・4年：東行庵の梅もぎ、梅シロップ作り
全校児童：東行庵奉仕作業、地域の方の講話（吉田地区と晋作）

★ 長岡外史の残したもの

教材：長岡外史

ねらい：地域の偉人が残した業績や言葉をもとにした劇を協力してつくることを通して、地域への愛着を育み、自分の将来の夢について考える。

〈学習指導要領：各学校の定めた目標による〉

教材について

長岡外史は、江戸時代の末期の1856年に、現在の下松市に生まれた軍人、政治家である。先入観や慣例にとらわれず、新しいものを受け入れる柔軟な思考があり、日本に航空機やスキーを広めたり、日本初の交通立哨を始めたりした。ひげの長さは68.8センチで当時世界一であった。

本教材では、数々の業績や残した言葉をもとに、気付いたことを話し合い、劇をつくることで、協同的な学習が期待できる。また偉人へのあこがれは地域への愛着と将来の夢を育む。



展開例

学習の流れ

- ①遠足で笠戸島の長岡外史公園に行き、石像に出会う。
 - ・ひげがこんなに長くてびっくり！
 - ・ふるさとの方向を見ているね。
 - ・遺言が刻まれているよ。
- ②顕彰会の方のお話を聞く。
 - ・多くの業績と言葉を残しているね。
- ③劇をつくって発表しよう。
 - ・長岡外史のことを知ってもらおう。

授業づくりのポイント

- ◇自分の足で歩き、外史に出会った感動や発見したときの思いを学習の始まりにするとよい。
- ◇外史のふるさとへの思いを知ることで、児童が地域への愛着をもつよう仕向きたい。
- ◇お話を聞くことであこがれをもち、今後の研究と活動が意欲的になるようにしたい。
- ◇俳優、大道具、衣装など、グループに分けて共同的な活動ができるようにする。

教材研究

- 笠戸島大城外史公園
 - ・風光明媚な景色の広がる公園の中に、ふるさとを見守っている長岡外史の石像に出会うことができる。その姿から、ふるさとを思う気持ちや立派なプロペラひげに気付く。また、業績や遺言が刻まれており、様々な発見がある。
- 中村小学校校長室
 - ・「博愛及衆」と書かれた外史の書がある。
- スキー汁
 - ・スキーを広めるために作ったスキー汁を作ってみる。作り方はインターネットで調べることができる。
- スターピア下松外史時計
 - ・飛行機に乗ったかわいらしい外史の絵が描かれている。

他の取組例

- 長岡外史の生涯を日本史の年表に重ねて、発展的な社会科の歴史の学習とする。
- 藩閥にとらわれなかった生き方や、娘を交通事故で亡くして始めた交通立哨を道徳の教材として活用する。
- あこがれや夢を抱かせ、キャリア教育に活用する。

★ 炭焼き体験をしよう

教材：杉やヒノキの間伐材

ねらい：地域を大切にしている人々とともに特色ある伝統、文化にふれる活動を通して、地域を大切に思い、郷土を愛する心を育てる。

〈学習指導要領：各学校の定めた目標による〉

教材について

子どもたちは、卒業記念制作として、地元平生町の森林組合から提供された杉やヒノキの間伐材などを原木とし、土製の窯（直径約3m、高さ約1.5m）を使って、木炭作りに取り組む。地域の特色ある伝統、文化にふれることをねらい、子どもたちは、まき割りや窯入れ、窯出しといった一連の作業を、地域の人々から学び、実際に体験することにより、ものをつくり出す喜びや苦労を味わい、働くことのすばらしさを実感するとともに、生活の中での知恵に気付くことができる。



展開例

学習の流れ

＜窯入れ＞ （11月）

- ①はじめの会をする（講師紹介）。
- ②窯の説明を聞く。作業の確認をする。
- ③窯入れ作業を行う（原木運び、原木詰め）。
- ④窯口を閉じる（レンガと赤土を使用）。
- ⑤点火する。
- ⑥終わりの会をする（今後の作業について）。

＜窯出し＞ （12月）

- ①はじめの会をする（日程説明）。
- ②窯口を開く。
- ③窯から炭を運び出す。
- ④持ち帰り用の炭の荷造りをする。
- ⑤点火する。
- ⑥終わりの会をする（お礼のことば）。

授業づくりのポイント

- ◇ふれあい窯世話人や地域ボランティアの方から作業内容や留意点等について話していただき、子どもたちが見通しをもって安全に取り組むことができるように配慮する。
- ◇班ごとに地域ボランティアの方に指導者となっていただき、まき割りと窯入れの作業をローテーションで体験できるようにする。
- ◇作業内容や分担、留意点等を確認して、班ごとに作業に取り組めるようにする。
- ◇できあがった炭のことや昔から伝わる生活の知恵などについて、地域ボランティアの方に質問したり、確かめたりしたことをまとめておくようにする。

教材研究

- 「大星山ふれあい窯」（平生町佐賀 ハートランドひらお）
- 各市町にある施設等を利用して、体験活動を計画・実施することが可能である。
- 各教科等で、目的を明確にして年間指導計画に位置付けることが有効である。

他の取組例

- 社会 「地域の人々の生活、暮らしにかかわる道具」「国土の様子、森林資源の働き」「我が国の農業、国民の食生活」
- 理科 「燃焼の仕組み」
- 図工 「材料の特徴を生かして表現する（木炭づくり）」

★ 弥富そばを有名にしよう

教材：弥富そば

ねらい：○弥富そばを有名にしようとする地域の方々の願い・工夫・努力・自分たちとのかかわりを知る。

○弥富そばを有名にしようとする活動にかかわる過程において生じる様々な問題を、友達・家族・地域の方々などと協力して解決する力を養う。

○現在及び未来において、地域に貢献しようとする態度を育てる。

〈学習指導要領：各学校の定めた目標による〉

教材について

萩市弥富地域では、村おこしの一環として、そばのアピールに努めている。毎年行われる「そばの花祭り」は今年で16回目を迎え、県内各地からの来客でにぎわっている。

本教材では、そばを有名にしようとする地域の方々の願い、工夫や努力を学ぶとともに、自分たちも地域に貢献しようとする主体的な態度を養うことができる。また、自分と地域とのつながり、弥富そばと自分たちの未来とのつながりについても考えることができる。



展開例（単元全体の流れ）

学習の流れ

- ① 弥富そばを有名にしようとしている方々の願い・工夫・努力を聞くとともに、資料から地域の人口減少を捉え、弥富そばを有名にするという「主題」を設定する。
- ② 自分たちも弥富そばを有名にするためにできることはないか考える。
- ③ 考えた方法を分類・整理し、実際に行う活動を選択する。
- ④ 「そばの花祭り」に向けてそばを栽培し、当日にきれいに花を咲かせる計画を立てる。
- ⑤ そばを栽培して粉にする過程で生じる問題を解決する。
- ⑥ 花祭りに出店してそば粉を使って作った菓子を販売する計画を立てる。
- ⑦ 「そばの花祭り」を告知するCMやチラシを作り、ケーブルテレビで放映したり、人の大勢集まる場所・時間にチラシを配ったりする。
- ⑧ 地域の菓子屋で、そば粉を使ったお菓子の作り方を教わる。
- ⑨ 菓子の1袋の量・値段及び総数を決め、材料の量や予想利益の計算をする。
- ⑩ 菓子を入れる袋を作ったり、考えた店のレイアウトに合う物を作ったりする。
- ⑪ お菓子作りをして、袋詰めをする。
- ⑫ 出店のシミュレーションをして、出店する。
- ⑬ 「そばの花祭り」当日及びそれまでの学習についての振り返りを行う。

授業づくりのポイント

- ◇ 主題の目的・意義・有名にする対象地域を明確にして共有させ、単元を通して児童の意欲が持続するようにする。
- ◇ 参観日等で、家族や地域の方々からもアイデアをいただき、活動の選択肢を増やす。
- ◇ 「効果が大きく実行可能なもの」という視点を与え、活動を決定させる。
- ◇ 活動のゴールを明確にさせるため、「きれいに」とはどのような状態かを共有させる。
- ◇ 家族や地域の方から、害虫対策や昔の道具の使い方などについて教わる。
- ◇ 出店のために必要な活動を考え、役割分担させる。
- ◇ CMの秒数やチラシの大きさを指定することで、アピールポイントを焦点化させる。
- ◇ チラシを配る場所や時間を考え、よりよい宣伝方法について考えを深めさせる。
- ◇ 作りたい菓子の視点（おいしい、早く大量に作れるか等）を事前に考えさせておく。
- ◇ 家族や教職員に試食をしてもらい、妥当な1袋の価格を聞き取り調査させる。
- ◇ 袋や店を実際に観察させ、必要性・費用対効果という視点で作る物を決定させる。
- ◇ 保護者に、手伝いやオープン提供などの協力を呼びかけておく。
- ◇ 販売自体が一番の目的でないことを確認し、望ましい接客方法を考えさせる。
- ◇ 児童の頑張りやお客の反応を具体的に紹介し、達成感を味わわせる。
- ◇ 「弥富そばを有名にできたか」という視点で振り返らせ、今後の取組を考えさせる。

★ 彫刻のある風景

教材：UBE ビエンナーレ出品作品

ねらい：UBE ビエンナーレ（現代日本彫刻展）出展作品を鑑賞し、作家のこだわりや自分独自の作品の見方に気付く。

〈学習指導要領：B鑑賞(1) 我が国や諸外国の親しみのある美術作品に対応〉

教材について

宇部市は宇部市ときわミュージアムと連携して彫刻教育に取り組んでおり、今年で4年目を迎える。

常盤公園に野外展示されている彫刻作品や2年に一度開催される宇部ビエンナーレ（現代日本彫刻展）に出品された作品を通して、彫刻作品の鑑賞の仕方や自分自身の表現活動への活かし方などを学ぶことのできる教材である。



展開例

学習の流れ

- ①学校の校舎内外に彫刻作品のパネル（複製）を置いたら、風景がどう変わって見えるか想起させる。
- ②グループごとに作品パネルを設置し、デジタルカメラで撮影して作品をつくる。
- ③グループごとに作品を紹介し合い、彫刻のよさについて話し合う。

授業づくりのポイント

- ◇事前に教師や学芸員が作成した作品（写真）を提示し、彫刻の有無による風景の見え方の違いに気付くようにする。
- ◇デジタルカメラの使い方や撮影の手順について指導を行う。
- ◇グループごとの作品を投影し、児童による意見交換の後に、教師や学芸員の気付きや感想を述べ、価値付ける。

教材研究

宇部市は石炭をエネルギー資源とした工業によって栄えてきたが、工場からの排煙等が大きな問題となっていた。そこで明るく、美しい町にしたいと、木や花を植え、彫刻を置いたことが「花と緑と彫刻のまち 宇部市」の始まりである。宇部市「ときわミュージアム（緑と花と彫刻の博物館）」がある「ときわ公園」には約90点の野外彫刻が常設展示されている。ときわミュージアム彫刻野外展示場を会場に、2年に一度開催される野外彫刻展「UBE ビエンナーレ（現代日本彫刻展）」は、国際公募展となっている。

【所在地及び窓口】

ときわミュージアム（緑と花と彫刻の博物館）

〒755-0025 山口県宇部市野中三丁目4番29号

電話 0836-37-2888 FAX 0836-37-2889

ホームページ <http://www.ube-museum.jp/>

他の取組例

- すず（金属）を溶かしてメダルを作り、感謝の言葉などを記入して二分の一成人式で保護者に贈る（4年生：金属を使った彫刻にチャレンジ）。
- UBE ビエンナーレの出品作品を鑑賞し、近隣の小学校の児童や見学に訪れた一般市民に、自分たちの感想を交えた彫刻ガイドを行う（6年生：彫刻ガイドにチャレンジ）。
- 卒業制作として、彫刻作家といっしょに作品をつくり、校地内に展示する（6年生：学校でビエンナーレ）。
- コンクリートを利用した作品づくり（5年：作家の使う材料を使ってみよう）。

- ⑭自分たちの住んでいない地域のお祭りへ出店してアピールする計画を立てる。
- ⑮店に展示する弥富そばをアピールするためのポスターを作成する。
- ⑯そば粉のよさをよりアピールするための菓子の試作を複数行い、店に出す菓子を決定する。
- ⑰出店する。
- ⑱出店当日及びそれまでについての振り返りを行う。
- ⑲これまでの取組を家族や地域の方々に伝えるために、学習発表会に向けた台本作りを行い、発表する。
- ⑳弥富そばを有名にするという活動を来年度以後も継承・発展されていくことを願って、自分たちの取組や思いを本にまとめる。

- ◇「有名にしたい対象地域」という視点から、出店するお祭りを選択させる。
- ◇弥富地域のそば粉のよさをアピールするよりよい方法について考えを深めさせる。
- ◇弥富地域や弥富そばを知らない人に知らせたい情報は何かを考えさせる。
- ◇家族や教職員への試食調査結果とともに、想定される客層も踏まえて決定させる。
- ◇来店者に弥富や弥富そばを知っていたかどうかを聞き、認知度を児童に実感させる。
- ◇児童の頑張りやお客の反応を具体的に紹介し、成就感を味わわせる。
- ◇「弥富そばを有名にできたか」という視点で振り返り、今後の取組を考えさせる。
- ◇「問題解決過程の臨場感」「自分と地域や未来とのつながり」をテーマに台本を作らせる。
- ◇国語科の学習と関連させ、読みたくなる工夫・分かりやすくする工夫をさせる。
- ◇本作りを通して、取組の振り返りをさせ、自分や地域の未来について考えさせる。

教材研究

- 「そばの花祭り」は、毎年10月の第1日曜日に、萩市の弥富グラウンドにて開催されている。

他の教科等での取組例

- 国語科
 - ・そばを題材として、詩、俳句、歌作りをする。
- 社会科
 - ・「自分たちが出店するためのヒントを見付ける。」という目的意識で、店の社会見学に行き、店の人々の工夫に気付かせる。
 - ・「よりよい材料を探す」という目的で菓子作りのための材料を買う店を調べ、材料の産地や値段などの違いに気付かせる。
 - ・「よりよい宣伝方法を見付ける」という目的意識で、情報の発信者の立場から、チラシ、テレビ、新聞、インターネットなどの宣伝方法を調べ、効果の違いに気付かせる。また、情報を受信する立場に立った時の有効な活用の仕方について考えさせる。
- 算数科
 - ・そばの成長の様子を、棒グラフや折れ線グラフで表す。
 - ・菓子作りに必要な材料の量や利益の計算を、「単位量あたり」「割合」の学習につなげる。
- 理科
 - ・複数の栽培場所の地面の様子を比較させ、太陽と地面の様子の学習につなげる。
 - ・そばを教材として、植物の育ち方の順序やつくり、発芽、成長、結実について学ぶ。
 - ・出店日の天気を予想させ、天気の変化の学習とつなげる。
- 音楽科
 - ・そばを題材として、曲や歌詞作りをする。
- 図工科
 - ・チラシ作りを通して、目的や意図にあった表現の工夫を学ぶ。
- 総合的な学習の時間
 - ・萩市のジオパーク構想と関連させ、火山の噴火に起因する弥富地域の地形をイメージしたそば菓子を開発する。

★ 鯨唄を引き継ごう

教材：鯨唄

ねらい：通地区に古くから伝わる「鯨唄」を唄い続けることを通し、郷土の先人たちの優しさや鯨唄の歴史について知り、故郷「通」をより一層愛することができるようにする。

〈学習指導要領：各学校の定めた目標による〉

教材について

鯨唄は、長門市通浦住民の先祖の栄光と歴史を秘めた祝い唄として、地区住民の生活の中に深く根を下ろし、昔は正月元旦に住吉神社拝殿で唄われていた。その後結婚式や舟おろしなどの祝宴の席で唄われるようになり、地区の男性のほとんどは唄うことができていたが、今では鯨唄保存会の人にしか唄えなくなった。鯨唄を唄う際、両手をすり合わせながら唄うことになっている。この手の動作はモミ手と言われ、鯨が捕れたことを祝う気持ちと、捕獲された鯨を哀れむ気持ちが合わさってできた動作である。また、地区には鯨墓を建立し、捕獲された鯨や体内にいる子鯨を哀れむとともに、生活を支える鯨に感謝の意を表し、人間同様に供養している。

この鯨唄を唄い継いでいくことは、子どもたちに郷土の歴史を知らせるだけでなく、通の人々の心の優しさを理解させるよい機会であるとともに、郷土を誇りに思い、いつまでも郷土を愛する心を育てていくことにつながるものと考える。



展開例

学習の流れ

- ①鯨唄の歌詞の説明を聞き、古式捕鯨の様子を思い浮かべる。
- ②鯨唄の練習をする。
- ③地区運動会、地区文化祭、敬老会などで鯨唄を披露する。
- ④引継式を行う。

授業づくりのポイント

- ◇古式捕鯨の絵や卒業制作を提示し、当時の様子を想像させる。
- ◇定期的に鯨唄保存会の方を講師として招へいする。
- ◇発表の場を定期的に設けることにより、児童のやる気を継続させる。
- ◇鯨唄が通小で代々引き継がれてきた伝統的な文化継承であることを意識させる。

教材研究

北浦海岸には、かつて鯨が回遊(冬、暖かい場所で子どもを育てるために北から南へと回遊)してきて、青海島付近は捕鯨基地として栄えたところである。ここ通浦にも、萩藩の免許による鯨突取組という捕鯨組織があって、明治の中頃まで捕鯨が行われていた。

初期(約450年前)の捕鯨法は、鯨を浅い場所に追い込みモリで突いて捕る方法だったが、江戸初期(約400年前)から、(紀州の国から伝わった)網を鯨の行く手に張り、その中心に追い込んで弱らせてから捕る方法に変わった。当時は鯨一頭の収穫で七浦がにぎわったと言われたほど、北浦地方の社会・経済・文化に大きな影響を及ぼしていた。

そして、捕鯨に従事する漁民が納屋場作業や宴会のつど、大漁を祝い、また、大漁を祈って唄い始めたのが「鯨唄」である。海の男たちが逆巻く怒とうの海で鯨に立ち向かう姿をほうふつさせる勇壮な唄いぶりは、鯨の皮で張ったメ太鼓が、唯一の伴奏となって一層力強さを盛り上げるものである。



〈鯨墓〉



〈鯨資料館〉



〈網頭だった早川家〉



〈鯨唄保存会〉